



発行所 四国新聞社

〒760-8572
高松市中野町15番1号

© 四国新聞社 2013年

ご意見・お問い合わせは
読者相談室 087-833-5552
(平日10時～17時/土日祝休)

電話 087-833局

報道部 1119 総務局 1114
運動部 1818 販売局 1124
生活文化部 1121 広告局 1145
事業室・文化教室 811-2300

ご購読のお申し込みは
0120-084459

きょうの紙面



色付く秋、一気に

四国霊場66番札所・雲
門寺では、このところの
寒気の冷え込みで紅葉が
見頃。(22面で詳しく)

17 16 3 2 23

60代市職員が漏えいか
返子、被害女性の情
「原発警備は秘密指定」と
減反補助金5000円で調整
男子高橋、女子浅田がS
野球日本代表が台湾下す

第6部 薄れゆく絆

④

ほつとけない香川

美しいの郷土へ



代々の墓には入らない。高松市内のある夫婦は6年前にそう決断した。墓は峰山のふもと、この市営墓地内にある。終戦後の都市整備に伴い市街地から移転して以降、ずっと守り続けてきた。墓には夫(85)の両親が眠っている。

しかし、高齢になるに従い、花やバケツを抱えて墓地の急坂を上り下りするのが身にこたえるようになった。2人の娘はすでに嫁ぎ、誰が墓を管理するかが差し迫った問題になった。「娘たちには嫁ぎ先の仏壇と墓をしっかり守れと言いつけてあるが、実家の墓まで面倒みると言うのは酷」と夫は言う。

変化する供養

夫婦で新たに申し込んだのは檀那寺の納骨堂。自分たちの遺骨はそこに納め、寺に永代供養してもらう。「残された者に草刈りなどの負担がかからない。無縁墓にもならずに済む。難題を解決して夫婦はひと安心した様子だ。

供養のあり方が変化し

墓や仏壇の継承重荷

利用増える寺の納骨堂

12年前に初めて45体分の納骨堂を設けた。当初は利用を檀家に限っていたが、やがて檀家以外からも「とにかくお骨を納めさせてほしい」と要望が寄せられるようになった。

3年前、新たに150体分の納骨堂を整備した。寺院は継承問題への対応を余儀なくされている。冒頭の夫婦が申し込んだ高松市内の寺では、

「家族模様の变化の表れ」。納骨堂の利用が増えている状況について、住職の大山健児さん(46)が背景を語る。少子化で

跡継ぎがいらない、子どもがいても都会に出て墓の管理ができない家が、均等に分割されるのに、墓や仏壇の管理は引き受けた人だけが負担するこ

化が生じている。もともと寺の永代供養堂には、近在の信者が信仰心の表れとして位牌を納めていた。ところが近年は墓がない、仏壇がないなどの理由で遺骨を納める人が主流になってい

る。増加する対応するた納骨堂を整



申し込みが増える寺の納骨堂。背景には代々仏壇の継承問題があるという。高松市内